

社会的認証システム－第三者認証(ステップ3)レビューシート

団体名: 特定非営利活動法人日本HIS研究センター

訪問調査日: 2012年8月9日(木)

評価大項目(分類)	評価中項目	絶対評価コメント	達成率
I. 組織ミッション(社会的使命)と事業の推進	[1]組織ミッション(社会的使命)の確立	組織ミッションは定款や事業別パンフレット、ホームページ等に示され、公開されている。スタッフや関係者に対しては、会合やミーティングで周知を図っている。非営利組織としての位置付けが定款や活動パンフレット、事業計画・総会資料の決算報告書からも確認できる。組織ミッションを達成するための公益的な基幹事業として、「病院広報事例発表会」「HIS広報ランナー養成講座」「医療の利用情報健康診断はとはあと」等の活動状況が確認できる。	18/24 達成率 75%
	[2]組織ミッションと事業の策定	「とはあと」評価の現況とロードマップを12月ぐらいに検討を予定し、中期的な「ヴィジョン」はイメージしているが、計画書としては策定されていない。事業終了後の振り返りシート等を活用し、単年度事業計画は、多様なメンバーでプロセスに沿って策定されている。	
II. 組織と経営管理	[1]意志決定機関とガバナンス	通常総会および理事会は定款に基づいて開催されている状況が確認できる。医療法・医師法・薬事法等運営上必要となる法令やコンプライアンスの把握についての取組み状況が伺える。法人の経営環境は適切に把握・管理されており、専門職(税理士)である監事による内部監査が行われている。代表理事および事務局長の二人体制で、事務局運営の全般を担っている。	17/33 達成率 52%
	[2]適切な財務計画と執行・管理	経営計画書等は確認できない。財源は、各事業参加費や会費、寄付や協賛金の実績が見受けられ、税理士法人が税務に関する管理を行っている。	
	[3]職員と労働環境	法人としての雇用はない。	
III. 事務局の執行体制と管理	[1]組織・事務局体制の確立	事務局機能が明確であり月～金(9:00～17:30)で連絡・受付が可能になっている。全部事項証明書から法人の登記事項が確認でき、所轄庁への報告等、必要な手続行われ、事務所に保管されている状況が確認できる。	24/31 達成率 77%
	[2]会計全般	経理に関する管理規定は策定されていないが、慣例的なルールに沿って適切に処理が行われている。税理士法人から、必要に応じて会計に関するアドバイスを受ける体制がある。	
	[3]事業を推進するための体制やルール	年度事業計画に基づく事業を実施、フォーラムで事例発表を行う等の状況が確認できる。各事業の執行については企画書を作成し、実施している。事業終了後は、ミーティングで問題点等を挙げ、事業報告書として作成している。	
IV. 社会資源の活用	[1]社会資源(企業/行政/市民など)の連携と活用	各事業実施時に関係者がボランティアとして参加している。大学や大学病院他NPOとの協働事例が確認でき、企業との協働も一定程度見受けられる。行政との協働実績は確認できない。	11/16 達成率 69%
V. 情報の公開と社会的信頼	[1]情報の公開	法人ホームページや機関誌「バイブレーション」、ポータルサイト「きょうえん」等、情報公開の手段が多様に確認でき、適宜適切に更新が行われている様子が見受けられる。	12/18 達成率 67%
	[2]第三者による評価	BHI賞・フォーラム、とはあと事業に関して、医療タイムス・ぐんま経済新聞、北海道医療新聞に掲載された実績が確認できる。	
VI. 組織のリスクマネジメントと社会的責任の追求	[1]組織のリスクマネジメント	重要書類およびデジタルデータの保管等は適切に管理されているが、。管理規定の策定および規定に基づいた管理が今後の課題として見受けられる。個人情報に関する取扱い規定は策定されている。事業活動におけるリスク対応が一定程度見受けられる。	6/18 達成率 33%
	[2]組織の社会的責任の追求	「医療市民の会」の立ち上げに尽力する等、本来の事業の推進以外の活動にも参画している状況が伺える。環境に配慮・負荷の軽減に関して評価すべき活動は見受けられない。	
【相対評価(セルフレビュー)／総括コメント】 当法人は、30年以上にわたり全国の大小医療機関に対して、利用者のサービス価値の改善・向上を提案し、サポートをしてきた実績があり、病院経営に資することもさることながら、常に利用者の視点に立って、医療における情報や環境のあるべき姿を追究してきました。医療における満足や納得は、命や健康つまりは上質の人生や生き甲斐につながるサービスによって生まれると考えています。このため早くから「HIS思考」による信頼の醸成について説明し、日頃からの主体的な考えと他を思いやるマインド、さらには組織としてのシステム思考というトリニティを協調していくことで、さまざまな来訪者が重要な情報を提供してくれるようになりました。事務局としては、より多くの方々が再来していただけるような雰囲気づくりに気をつけています。また、方向性として、「医療市民」という概念により、病院に頼りすぎない自立した健康観を社会に広めたいと願っています。これらの活動が社会から賛同を得るには、より積極的な情報の公開がポイントであり、ネットワークを広げることで病院の協力もいっそう得られやすくなると考えています。また、医療提供の効率化やコストダウンにもつながり、これらをより総合的、戦略的に進めるには、より大きな体制(ヒト・モノ・カネ)が必要であり、そのあたりが今後の課題として捉えています。具体的にほ、「とはあと」評価システムの精緻化、IT化、評価員の教育、審査会の法人化、医療市民の会の立ち上げとコミュニケーション活動など、多くのプロジェクトを立ち上げ、医療法人の結束や組織化・健全化のために、危機管理やBCP(ビジネス・コンティニュー・プラン)の研究をセットにしたいと考えています。 本法人は、社会の多様な欲望を受け容れるHospitality Mind(他律基準)・主体的で独自の理念に育まれるIdentity Management(自律基準)・そのビジョンと仕組みを創造するSystem Strategy(公律基準)＝HISを組織理念として、2004年12月の法人化以後、市民に開かれた医療および適切な情報発信の推進に向けた活動を展開されています。各地の医療・福祉施設の取組事例から多くを学び交流できる機会として実施されている「BHI賞」や病院広報・情報開示レベルを評価する「とはあと」事業は、全国的にも例を見ない先駆的な事業の実施状況が伺えます。しかし、今後の事業の広がりや、中長期的な視点で行っていくための人材の育成及び組織基盤の整備に一定程度課題が見受けられます。今後、組織としての課題を段階的に整備されていくことを期待し、本社会的認証システム－第三者認証(ステップ3)において認証しました。			88 / 140 総合達成率 63%